

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	オーラルヒストリーによる韓国知日派知識人に関する研究（続）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	渡邊 聡
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目	知日派知識人（平壤出身）の北朝鮮分析と日韓関係
------	-------------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

【目的】戦後の日韓関係を知る識者が次々に一線を退いているなか、日韓関係に関与した韓国の識者を対象とするオーラルヒストリー・プロジェクトを、代表者はこれまで韓国の要人を対象に実施してきた。韓国には、その社会で一定の影響を持ってきた知日派知識人が存在し、活躍してきたからで、彼らが経験したことを記録しておくことは重要な意味を持つ。

なかでも、科研費によって2020年度まで聞き取りを実施してきた康仁徳・韓国元統一部長官は、北朝鮮情報の第一級の分析家として著名だ。韓国政府内部での情報分析だけでなく、日米韓協力にも携わってきた。金大中政権下での閣僚としての職務に関してのみならず、朴正熙政権下の北朝鮮情報を分析する実務家としての「語り」も貴重であった。元来、本人も韓国へ逃れた平壤出身である。

このオーラルヒストリーに関しては、科研費報告書としては刊行したものの、出版化には至っていない。今年度は、出版化するための作業を中心にして、研究を行った。

【成果】①オーラルヒストリーの20回のうち、2回分に関して、出版化のための次の整理が終わった  
 ■一九五〇年一二月に平壤から南へ渡る ■海兵隊に入る前の軍歴 ■東洋のエルサレム・平壤でクリスチャンの洗礼 ■平壤時代の学校と教育 ■なぜ平壤に宣教師が多かったのか ■日本の影響が希薄だった家庭環境 ■日米開戦時の平壤と日本統治教育 ■戦時下の食糧事情 ■日本人教師の思い出 ■平壤という都市 ■宣教師・華僑と平壤の食べ物 ■出身高校の同門たち ■平壤三中での軍事教練 ■八・一五の前と後 ■平壤神社 ■ソ連軍が進駐 ■八・一五直後の日本人 ■北と南の食糧事情 ■父・康基璇の生活スタイル ■得意だった日本語作文と親しんだ夏目漱石の小説 ■放課後の平壤での遊び場 ■地図で比較する平壤の今昔 ■解放直後の学校システム変更 ■一九四七年に入学した平壤高級中学校 ■将来の朝鮮労働党幹部たち ■朝鮮史の学習と朝鮮文学の作家たち ■三八度線で南北が往来可能だった時期に兄は越南 ■平高生など越南した人たちの理由 ■人民委員会による土地改革事業 ■ソ連兵の振る舞いと日本人避難民 ■物質生活の変化 ■高級中学校での教育カリキュラムと教科書 ■ソ連軍歓迎大会（十で見た金日成 ■金日成の隣にいた曹晩植 ■一九七二年に南側委員として金日成と会った時のエピソード ■信託統治反対運動や反共デモもあった平壤 ■復活した教会への弾圧と女性の権利 ■平壤における地名の変更 ■運命的であった共産主義研究一筋と日韓関係

②康仁徳氏が4月と9月に来日した際、追加的なインタビューを都内で行った。金正恩総書記の対南政策と韓国社会の反応、「ワシントン宣言」の意味などについて聞き、その内容を専門誌に執筆した。

【今後の展望】引き続き出版化のための作業を進めて、康氏からも校閲を受ける。